

2027年ベオグラード国際博覧会 日本政府出展検討委員会（第2回）議事要旨

日時： 2025年10月17日（金） 10:00～11:30

場所： オンライン形式

出席者：

【委員】

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 国際局 担当部長 安藤 勇生 氏
東京都公立大学 理事（国際担当） ウスビ サコ 氏
京都大学大学院 教育学研究科 教授 佐野 真由子 氏
UG WORK 合同会社 代表 澤田 裕二 氏
京都大学 総合博物館 准教授 塩瀬 隆之 氏
日本セルビア協会 会長 角崎 利夫 氏
東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授 松田 陽 氏
※欠席 一般社団法人 日本経済団体連合会 常務理事 岩村 有広 氏

【幹事省】 経済産業省

首席国際博覧会統括調整官 茂木 正
商務・サービスグループ 博覧会推進室長 奥田 修司

【副幹事省】 文部科学省

大臣官房 国際課 教育改革調整官 高橋 一郎

【事務局】 独立行政法人日本貿易振興機構（参加機関）

海外展開支援部長 瀧 統 ※司会

議事概要：

1. 松田委員、副幹事省（高橋教育調整官）から挨拶
2. 資料3、4について幹事省（経済産業省 奥田博覧会推進室長）から説明。
3. 配布資料に関する意見交換

委員からの主な意見は以下のとおり。

佐野座長

- ・ 本日はメッセージ案（資料4）を固めることを主眼にした会であると理解している。加えて、時間

はあまりとれないが、展示内容や展示の方向性・手法について基本計画の中に示しておくべきことをできるだけ出し合っておきたい。

- ・ まず、資料4のメッセージ案について議論したい。少し無難な印象であり、この内容で本当に良いのか再度ご検討いただきたい。メッセージとしては長めのセンテンスになっており、下に書いてある説明とも重複がある。むしろ、このメッセージ案の代わりに、インパクトのある、日本館のテーマを設定してはいかがか。
- ・ テーマになりうる言葉として、第1回委員会で澤田委員から「日本のあそび心」を提案していただいていたが、議事要旨に漏れていたもので復活させて検討したい。これはコンセプト全体を包含できる良い言葉だと考える。また、「メッセージに込めた意味」の3つ目を表に出すなら「あそびはいのち」というテーマもありうるのではないか。

澤田委員

- ・ メッセージ案はもっと短い方が良いと思う。「つなぐ」は皆さん合意だと思うが、「人と人がつながる」では自然や文化との関係が抜けてしまうのでもう少し広義にした方が良い。佐野座長の話を伺い、「人とすべてのいのちをつなぐ」とした方が良いと思う。大阪・関西万博の閉会式で石破総理が「分断と連帯」に触れられたが、大屋根リングの内側で人類が連帯することは万博の新しい意義となった。日本としては、この新しい意義を拾ったほうが良いのではないか。

安藤委員

- ・ 澤田委員が言ったようにテーマとしては短く一言にした方が良いと思う。テーマとして印象的なものを作り、メッセージは長いものでも良い。具体的には日本館のテーマという意味で「日本のあそび心」が一つのテーマになると思うし、「あそび」は「人を動かすあそび」「いのちを豊かにするあそび」くらいがちょうどよいのでは。それらを補足する意味でメッセージの背景を伝えてまとめていくのが良いと考える。

塩瀬委員

- ・ （大阪・関西万博のセルビア館の展示写真を共有しながら）大阪・関西万博のセルビア館のパネルを紹介する。たとえば、全生命体のあそびを表現しているといった表示もあった。セルビア館では「あそびの社会」「人類のためのあそび」「だれもが輝ける」「遊びで誰もが成長できる」「みんなが遊びを楽しめる」といったキーワードが入っていたので、どれを受け取るのか、あるいは受け取らないのかを検討することも必要ではないか（どれを入れて欲しいという線引きがあるわけではない）。「他の生命体」や「成長」という要素を入れるか入れないか、委員の皆さんが考える「あそび」と関連するキーワードだけでも今回出しておけると、事務局も出展計画を作りやすいのではないか。

サコ委員

- ・ 全体テーマとサブテーマを意識すると良い。抽象度をどれだけ上げるかも重要。その中で私としては抽象度を上げる（短くする）としたらシンプルなものとして「あそびでつながる」「あそびがつなぐ力」「つながりのためのあそび」などがあり得る。「Play for Connection」「Play together」「Grow together」など。大阪・関西万博が謳った「多様でありながら一つ」を受けて、「Unity」もキーワード。「Unity in Play」「ともにあそび、ともにそだつ」も良いだろう。あそびでどうお

互いを認め合って繋がっていくかが重要。「あそび」と「つながり」の2つの言葉が入れば良いと思う。無理に「いのち」とか「生命体」に言及せず、「あそび」と「つながり」を出せば良いのではないか。

松田委員

- ・ 当初、事務局案はよくまとまっていると感じていたが、改めて見ると冗長な印象を受ける。大阪・関西万博で感銘を受けたイタリア館は「芸術は生命を再生する」を掲げていた。本当にシンプルにこれだけだった。もう少し短いピリッと引き締まったキャッチフレーズがあったらよい。「play」「Connect」など。周囲の有識者に話を聞いたところ、あそびの定義として、根本的には「自由である」「あそびそのものは機能性を持たない」ということを教えてもらった。あそびに目標とルールが加わるとゲームになる。今のメッセージ案には自由という言葉がないので、「自由でありながら探究心を伴う」などどこかに入れたほうが良いと思う。

佐野座長

- ・ 大事な視点を示唆いただいた。前回の議論ではゲームとあそびを区別せずに考えていたかもしれない。

角崎委員

- ・ あそびやあそび心は英語にしづらい印象。外国人に分かりにくい概念ではないか。むしろ「命を豊かにするあそび」など、他の言語に翻訳しても分かりやすいようなテーマが良いと思う。

佐野座長

- ・ ここまでのところ短めのテーマを置くという点は一致している。メッセージ案に代えて、テーマを置くのが良いと思っている。そのうえで、資料3の「メッセージに込めた意味」にある3項目の文言をもう少し言葉を磨き、調整していくというイメージか。
- ・ 「あそび心」の翻訳は難しいと予想はしていたが、文化紹介の場である以上、あえてそれに挑戦するという選択肢もある。

サコ委員

- ・ 「あそび心」は「Playful spirit」「Playful mind」と表現できるが、「Mindfulness」のように拡大解釈すれば使えなくもない。

佐野座長

- ・ 「Playful mind」は良い言葉。また、先にサコ委員が言われたように、大阪・関西万博で「多様でありながらひとつ」を打ち出した、というのは万博に関係する人みんなの認識しているところ。これを強調していくのも重要な選択肢の一つ。その他つながりを出していく、人を動かす、命を豊かにする、輝く、みんな楽しめるなどのコンセプトも挙げていただいたが、他に意見はあるか。

澤田委員

- ・ 事務局含め聞きたいが、テーマではなくメッセージとしているのは意図があるのか。同義で考えて

いたのか。ただ「あそび心」とするのではなく、「日本のあそび心」と、主語を明示したほうが人の心を打つ。大阪・関西万博で人の心を打つパビリオンは主語がはっきりしているケースだった（「誰が」言っているのが明確）。テーマ館をやるわけではないので、素材や視点の中に「日本」をしっかり入れておかないと、ぼやける。

佐野座長

- ・ 日本は今回、万博をホストするのではなく参加国という立場になるので、日本を紹介するという点はしっかり持たないといけないという点について同意。

奥田室長

- ・ 事務局が「メッセージ案」としているのは、基本計画策定後に事業者が具体化を進める際、事業者には「日本館が何を伝えようとしているか」という指針を示したいと考えたため。我々が伝えたいものは何なのかという意味で「メッセージ」とさせていただいた。その趣旨を明確に説明できればテーマとして説明しても良いと思う。

塩瀬委員

- ・ 自由だからこそ多様でありながら一つでいられる。一番の原点に何事にも制約されない「自由」がある。京都大学では、自由という言葉を持ち所にお互いが何をどれだけ探究しても、お互いに評価も制約もされないから一緒にいられる。遊びは自由だと翻訳しておけば、多様でありながら一つというメッセージにも直結できるので、もし強調できるのであればどこかで強調しておいたらよいのではないか。

佐野座長

- ・ 「多様でありながらひとつ」「つながり」という言葉が共通して挙がっている。「(主題) 日本のあそび心」のもとで「(副題) すべてのいのちをつなぐ」とすれば、大阪・関西万博セルビア館が謳っていた“全生命体”にも通じるのではないか。最初に挙がっていたように「人とすべてのいのちをつなぐ」とすると人とその他が分かれてしまうので、「人」を外して「すべてのいのち」だけにするのがよいと思う。

澤田委員

- ・ 「つなぐ」という言葉は入れた方がよい。でないと、次の段階であそびについて色んな方向に行ってしまう。

松田委員

- ・ Unity とつなぐという言葉は少し意味が異なる。Unity は一つになるという意味があるが、つなぐは横方向に広がる。「Unity in Diversity (多様性の中の Unity)」はインドが使っている表現。

安藤委員

- ・ 過去博の日本館では、来訪する海外の VIP から口々に「日本館は何を発信しているのか」を尋ねられた。「(主題) 日本のあそび心 あそびは自由だ (副題) あそびは人と人や自然をつなぐ、あそび

は人を動かす、あそびはいのちを輝かせる、あそびは人を豊かにする」などとする伝わりやすいのではない。

サコ委員

- ・ 少し抽象度を上げ「ともにあそび、つながる日本のあそび心」はどうか。「ともに」は大阪・関西万博のウーマンズ パビリオンでも使われていた。「Together」や「Connecting」もキーワードになりうる。抽象的だが、相手に自分の解釈を持ち込ませる余地がある方が良いと思う。「いのち輝く未来社会のデザイン」も色んな解釈の仕方があった。

澤田委員

- ・ 今のサコ委員の「ともに」は非常に良いと思う。「ともにあそびつながる日本の心」でも良いか。

サコ委員

- ・ このところインバウンド客が増加している。日本人が考えるよりも、世界は日本に期待している。人々は明確さを求める現代社会に限界を感じている。

佐野座長

- ・ 「日本の心」にすると、意味が広がりすぎる。英語で Japanese Spirit となればさらに意味合いが違ってしまふ。サコ委員が「ともにあそびつながる」は抽象的と仰ったが、行動としてのあそびを想起させ、むしろかなり具体的になってしまうのではないか。

澤田委員

- ・ なぜ大阪・関西万博があれだけ人気が出たかという万博自体があそびになっている。あそびながらいろいろなことが理解できている。その人たちが楽しかったから数回行き、そこから学びが起きている現象。万博自体があそび、という考えがあり、その中で色々なことが起こっているのが万博の新しい価値観だと思う。

塩瀬委員

- ・ 安藤委員の「日本のあそび心、あそびは自由だ」のご提案がよいと思った。それを聞き、「つなげる」という強制的な言葉よりは、結果として「つながる」という方が自然な表現で良いと思う。大阪・関西万博でも自由に各々が好き勝手にできる結果として、自然とそこに人が寄り集まってその流れにまた新たな人が巻き込まれていった。あまり機能や役割といった固定的な表現に限定しない方が、「あそび」という言葉に余白など、いろいろと本来の意味を込められると考える。

佐野座長

- ・ 言葉はさらに調整するとして、テーマを説明する諸項目をどうまとめるか。安藤委員のご意見ではサブテーマ的なものを3つ挙げていただいたがそのようなイメージか。サブテーマまでこの場で決定することは難しく、次の段階で展示をつくり込んでいく方々に渡しながらか検討するものかとも思う。今日の資料には前回の議論をもとに3項目が挙がっているので、これらを整理していくのでよい。

安藤委員

- ・ サブテーマという形にはこだわっていない。テーマを説明するためのメッセージという位置づけで良いのでは。

佐野座長

- ・ 2項目目にある「探究心をもって真剣にあそぶ」は削って良いと思うが、残すのであれば2つ目よりも1つ目の項目に入れるほうが適切。また、3つ目の項目について、「セルビアは大阪・関西万博でこのようにしてくれたので、ベオグラード博で日本はこうする」と明示的に書き込んだ方が良い。順番としてはこれを1つ目にすべき。

澤田委員

- ・ 内容的には良いが「あそびには人と人をつなげる機能がある」は「日本の」を入れた方が良い。日本の精神性、特殊性を発信した方が良いと思った。日本がここに注目しているというような。また「余白」と「探究心」は繋がらない気がする。「探究心」はあそびの一つだが、やるのであれば別にすべき。

佐野座長

- ・ 「探究心」は「余白」とは分けて考えた方が良い。「真剣にあそぶ」は1つ目に移動し、2つ目は、人間が心豊かに暮らしていく想像力、創造性の源泉となってきた日本文化の余白を表現する、という形で十分では。

奥田室長

- ・ 事務局では、本日の議論を踏まえて案を改訂したい。「大阪・関西万博のセルビア館とベオグラード博の日本館のつながりを考慮する」は広く伝える話ではなく、出展関係者がしっかり認識しておくべき項目か。メッセージに込めた意味としては、①つながる、②余白、自由、③探究心や想像力・創造性、としてはどうか。

佐野座長

- ・ セルビア館への返礼は表に出さないと意味がないと考える。むしろ最初に伝えるべきことかと思う。また、「余白」と「自由」は同義ではなく、一緒にすることには違和感がある。「あそびは人をつなげる」という具体的な日本文化紹介の方に「自由」が来るのではないかと思う。しかし、「自由」をどう入れるかは意外と難しい。

安藤委員

- ・ 「あそび」を通じて、ひとは考えたり、工夫したり、思ってもみないことが生まれたり、自発的に動いたりすることだと思う。万博の6か月間は、始まりに比べて、人々が工夫しながら新しいものが生まれてきた。あそびと万博の同じ根底を流れているのが「自由」ではないか。

佐野座長

- ・ 同感だが、「自由」を明示的に入れるのが良いのか。様々な政治体制の国が参加する万博において、自由という言葉は非常に強いメッセージ性を帯びる。

サコ委員

- ・ 確かに「自由」という言葉は扱いが難しい。「自由」という言葉を使わずに、意味を伝える。「選択性が高い」とか「自ら人とつながりたい」などの表現ができる。あえて「自由」という言葉を使わない方が良いと思う。

佐野座長

- ・ この部分について、事務局からは早めにラフなもので良いので案文をいただき、キャッチボールをして第3回委員会につなげたい。キャッチフレーズのほうは、ここまでに挙がった意見から良い形でまとめたい。

澤田委員

- ・ サコ委員から提案のあった、「ともにあそびつながる 日本のあそび心」で良いのでは（二つの言葉の前後関係は今後検討）。あそびという言葉が重なっても良い。

サコ委員

- ・ 「Playing and Connecting, Japanese(Japan's) Playful Mind」。「ともに（あそび）つながる、日本のあそび心」。大阪・関西万博の「生きる」という言葉がベオグラード博の「あそび」に置き換えられている感じもする。

佐野座長

- ・ 「あそび」の重複を避けるうえで、「ともに生きる」もあるかもしれない。

サコ委員

- ・ 少し多言語でも練ってみることが必要。英語やフランス語にも置き換えて考えてみたいが、「ともにあそびつながる」はすごくいい感じだと思う。

佐野座長

- ・ テーマ、メッセージに関する議論はここまでにして、第3回委員会で最終的に決定したい。残り時間が限られているが、「基本計画案」P7の展示の方向性、P8の出展にあたり留意すべき点でぜひ入れておきたい点を議論したい。次回委員会ではこれらをほぼ最終的な形にまとめたものが提示されると認識している。

澤田委員

- ・ 展示手法の中に「人」を入れておくべき。インドネシア館が良い例だったが、あそびというと「人が持つエネルギー」が重要。人の存在を重要視した方が良いと考えた。この段階で「没入感」という言葉は、特定の映像技術などに展示手法を限定する可能性があるため不要。

佐野座長

- ・ まったく同感。大阪・関西万博でも人を多く配置したパビリオンは非常に印象的だった。また、その際、日本でセルビアを勉強している学生、ベオグラード大学で日本語を勉強している学生を活用していきたい。

塩瀬委員

- ・ 大阪関西万博の基本構想や基本計画で当初は、空間・展示・広報についてしか項目をたてる要請がなかった。しかし、今回の万博を経て、ベオグラード博に向けた基本計画では、早くから行催事の方針は入れた方が良く感じた。来場者との相互作用に対して展示だけでなく、人が入ったときのホスピタリティにも触れておくことが大切で、それが展示に入れておくのか、行催事に入れておくのか、少なくともどちらかには明示して入れておくべきではないか。行催事だけでは、それが行われる一時的にしか「人」の入る余地がなくなってしまうので、「展示」にも入れておくべきか。

佐野座長

- ・ 館全体にかかわることだろう。現時点で必要な要素さえ入れておけば、次回、基本計画案を見て、入れる場所についてはまた意見交換ができると思う。
- ・ 第1回委員会で澤田委員から指摘のあった「平和へのメッセージ」は大事だと思ったが、現在そういう要素が欠けていると感じる。セルビアの現状認識(どういう国だと思っているのか)について、辞書的な事柄だけではなく、四半世紀前に NATO 空爆があり、現役世代がみなそれを経験しているということが重要ではないか。展示方針で示すことではないかもしれないが、その経験のなかから、あそびやレジリエンスというテーマが打ち出されているという受け止め方が必要だろう。

角崎委員

- ・ 最後に座長が言われた点は非常に重要。セルビアの歴史は 25 年前の空爆の跡が残っている状況。悲惨な目に遭ったことを忘れないようにしようということだと思う。世界大戦でもセルビアは甚大な被害を受けた。苦しい中でもあそびは国民の心をつないできた。また、あそびの関係でいうと、同姓同名の多さに関するギネス記録で日本とセルビアは関係があり、最近日本のタナカヒロカズさんのギネス記録をセルビアのミリツァ・ヨヴァノビッチさんが抜いた。これをきっかけに日本とセルビアでは同姓同名の人同士の交流会が行われていると聞く。この流れは、お隣のハンガリーにも広がっていると聞く。少し関係がない話かもしれないが、面白い事例として紹介したい。

澤田委員

- ・ 展示の中で日本とセルビアの繋がりを示せると良い。例えば日本発祥のカラオケはセルビアで大人気と聞く。入口あたりでセルビアの中にある日本を何か紹介できると良いのでは。

佐野座長

- ・ 皆様の素晴らしい議論に感謝する。第3回委員会に向け、事務局から、本日の委員会で寄せられたご意見を踏まえた基本計画案を早めに提示いただき、調整を進めていきたい。